



MIYOSHI
CENTRAL HOSPITAL

第9号

2007年10月

市立三次中央病院だより

花みずき

赤穂市民病院と姉妹病院提携



市立三次中央病院



赤穂市民病院



病院長
末永 健二

病院長
邊見 公雄

助太刀です！

基本理念

私たちは地域の皆様から信頼され
親しまれる病院を目指します



赤穂市民病院との姉妹病院調印

地域医療のさらなる充実のために



当日開催された赤穂市民病院の病院祭に参加し、三次市の観光紹介、特産物の展示販売、三次どんちゃん披露、当院の紹介パネル展示等を行い両市及び両院の理解を深めました。



赤穂市と三次市は「忠臣蔵」ゆかりの地として従来から友好関係にあります。瀬戸内沿岸部、関西経済圏と中国地方中山間地という地理的な相違があるものの、西播磨医療圏域の中核病院、備北医療圏域の中核病院として、その存在意義、人口規模、医療圏人口とも極めて似通っています。

病院の方針として「怒」（おもいやり）を掲げられ、「良い医療を効率的に地域住民とともに」を実践されている赤穂市民病院と、「地域の皆様から信頼され親しまれる病院」を目指している市立三次中央病院とが姉妹病院として提携し、積極的に友好関係を築いていくことは意義深いものがあります。

今後、医療各分野での交流を通して、地域医療連携、地域がん診療拠点病院としての機能・災害時の相互支援等、両院の医療機能の充実を図っていきます。

2007年(平成19年)6月21日(木曜日) 中国新聞掲載

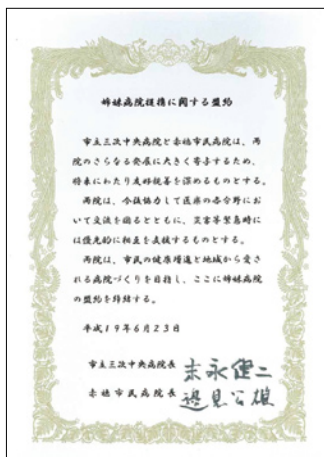
災害時助太刀いたす 忠臣蔵が縁結び

印する。

三次中央病院
忠臣蔵ゆかりの自治体として、両病院は、病床数が同程度で、交流がある三次市の三次中央病院と、兵庫県赤穂市の赤穂市民病院が似ている。昨夏、三次市で開かれた全国自治体病院協議会の会議で、三次の末永健二病院長と赤穂の辺見公雄病院長の間で、連携の話が進んだ。赤穂市民病院で、両病院長が「盟約書」に調印する。

赤穂市民病院
赤穂市民病院は、院内演奏会や、手続き案内などの市民ボランティアや、犬の癒やし効果に期待した「ドクター・ドッグ」(月一回)の導入などで先進的。三次市民病院の石原隆史室長は「学ぶところは多い。一緒に研修し、交流を深めたい」と歓迎している。

(衣川圭)



安心して出産できる医療体制の確保に向けて

1 産婦人科医師の不足のなかでの医師確保



超音波を利用した胎児・陣痛監視装置

全国的に産婦人科の医師不足は深刻な問題となっております。

全国の医療機関で働く産婦人科医は1万人弱で、平成6年から10年間で約1千人も減少しております（平成16年の厚生労働省の調べ）。広島県内でも産婦人科医師の不足により、分娩の受け入れを中止したり、産婦人科を休診したりする医療機関が増加しております。

当院でも、平成16年に近隣の総合病院における分娩の受け入れ中止に伴い、年間約300件であった分娩件数が、平成18年は485件となりました。

2 設備・施設拡充

関係機関のご協力により、本年度は産婦人科医師を3名から5名（非常勤1名を含む）へ増員することができました。安心して出産できる医療体制を整備することができました。

同時に外来診察室を2診体制から3診体制に増設しました。患者様のプライバシーを重視した機能的な診察室に改修し、待ち時間の短縮等、サービス向上の充実を行っております。

また、増設工事に併せて、診察台や超音波診断装置なども整備しました。

（文責：病院企画室長 和田 昭）



超音波診断装置



診察台

フレッシュ！になった 栄養科です

栄養科の業務は大きく分けて、患者様の栄養管理（入院中の栄養管理や栄養指導など）と、患者様の治療に応じたお食事を提供する食事サービスがあります。

当院では4月より食事サービスが全面委託になり、委託業者の日清医療食品（株）とともに力をあわせて、入院患者様により900食のお食事を提供しております。新体制での食事サービスの取り組みについて紹介します。

1 メニューの工夫と食材の地産地消

メニューについては、付け合せに工夫をもたせ、新メニューを取り入れました。例えば付け合せで多かったポイルキヤベツの他に、木の葉カボチャやさつま芋、カラピーマン、西洋野菜ミックスなどの新食材や、地元のアスパラガスなどを加え、料理によって変化をつけるよう工夫しています。

また、季節ごとの「行事食」に、新しく「郷土食の日」を作り毎月全国都道府県の特産品を使った郷土料理を提供しています。6月からは、「三次の野菜（食材）をたべる日」として三次産の野菜や地元産小麦粉使用のパンを使ったメニューなども取り入れています。

また、お米は三次産コシヒカリ、牛乳は広島県内産原料乳のみを使用した商品を使い、地産地消にも努めています。

地域の生産者の方から新鮮な食材を届けていただき、より安全でおいしいお食事を提供できるよう努力しています。

2 配膳車、食器、食札の一新

温冷配膳車・トレイ・食器も一新しました。また、食札には患者様のお名前、食種だけでなく、献立名、カロリーも表示されるようになりましたので、ご参考にしてください。

これからの栄養科では入院患者様の1日も早い回復のお手伝いが出るよう、安全で安心な食材を選択し、衛生管理に配慮しながら患者様に喜ばれる食事づくりをめざし頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（文責：栄養科 吉永洋子）



温冷配膳車

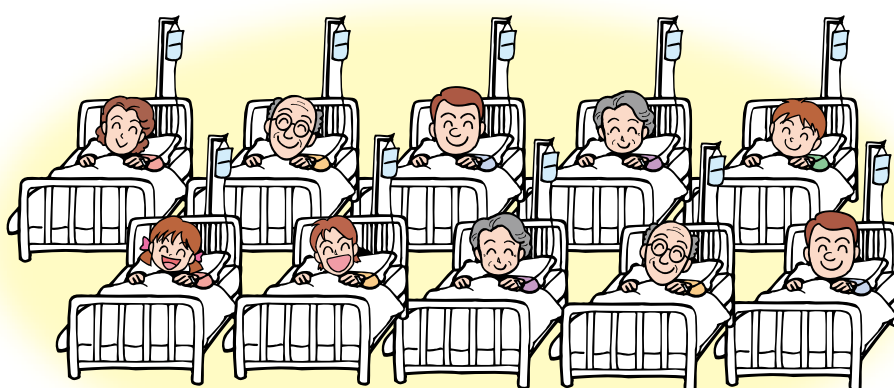


三次産の食材を使用した新メニュー

看護部

患者様に安心して入院していただくために

～新たな看護配置基準「10:1」について～



10:1

患者様10名に対して、平均して1名の看護師が勤務していることになります。



市立三中央病院

看護部は、4月に多数の新採用職員を迎えることができました。これによって、念願であった看護配置基準「10対1」を実現できました。

具体的には、入院患者様が50人に対して各勤務帯に平均5名の看護師が働いている状況が「10対1」となります。昨年までは、「13対1」の平均4名での看護師でしたから、平均1名増えたこととなります。

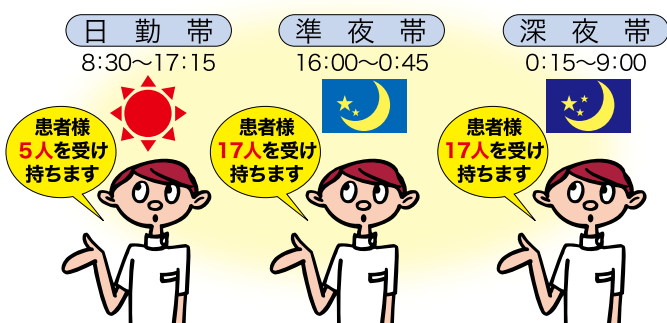
各勤務帯（日勤帯、準夜勤帯、深夜勤帯）は一勤務帯が8時間で、一日（24時間）3勤務帯となりますので、一日あたり3名の増員となったわけです。3階西病棟、5階西病棟では、2人夜勤を3人に増やすことができました。

また、患者様の安心と安全を向上するために、様々な試みを実施しています。例えば検査や手術・清拭や食事支援などのため、必要な勤務時間帯に多く勤務するよう変則勤務を行っています。

看護師配置の充実、医療の質をはじめ、医療事故を防ぎ、患者様の満足度を促すと考えています。

患者様の高齢化によって発生する様々な問題や医療の高度化に対応するには、まだまだ十分な人員とはいえませんが、地域住民の期待に応えるよう、誠意努力してま

10:1看護（入院患者数50人に対する）看護職員配置図



※病棟によって受け持つ患者様の人数が異なります。

います。

患者様に安心して入院・療養していただくため、看護師の質向上も大切です。「認定看護師」等、専門領域を持つ患者様に関わらせていただきます。

現在誕生しております5名の認定看護師は、看護のスペシャリストです。どんなことでもご遠慮なくお尋ねください。

（文責：看護部長 中山節子）

看護のスペシャリスト 「認定看護師」5名が 活躍しています！

認定看護師は、日々の実践と並行して、各部署での臨床実践は勿論、専門知識を活かし、医師をはじめ他の職種と協働して委員会、チーム活動で活躍しています。

さらに、院内のみならず、地域の他の看護者のケア技術の向上に貢献できるよう努めていきます。



【透析看護】2階病棟 副看護師長 福原真理

透析療法を受ける人とそのご家族に対して、安全・安楽な透析を行うために、熟練した看護技術と知識を用いた看護を提供します。又、看護職者に対して、指導、相談を行い透析看護の質の向上に努めます。



【小児救急看護】3階東病棟 木下笑香

小児救急において、子どもと親の権利を尊重した専門的な知識と技術を提供することにより、個々の児の成長に応じた対応をします。又、救急外来を育児支援の場として、育児不安の強いご家族に対し、家庭における初期対応方法、事故予防の啓蒙活動などを行っています。



【救急看護】2階病棟 萬徳美穂

救急医療において、適切な初期対応を行い、患者様の生命の安全を守るよう最新の知識と看護技術を提供します。

院内における救命技術指導に留まらず、地域医療従事者、一般市民の方々に対しても活動を拡大していきます。



【感染管理】手術室 三苦真理恵

患者様が、安心して診療が受けられ療養できるように、病院内での感染に関するデータを収集・分析を行い、感染防止活動を行っています。又、スタッフ一人一人が、感染防止技術を身につけられるよう、教育・相談を行います。



【緩和ケア】4階東病棟 湯川弘美

緩和ケアとは、がん患者様の身体的苦痛だけでなく、心の苦痛や社会的な苦痛も緩和できるよう、最後まで安らかにその人らしく生き抜くことを援助します。大切な人との大切な時間を過ごしていただけるよう看護をしていきます。

看護への思い(その7)



3階東病棟 助産師
藤井 純子

助産師の仕事に就き1年6ヶ月が経過しようとしています。これまで多くのお産に関らせて頂く中で、命の大切さ、尊さを日々実感しています。現在、少子化が進み産科医療も集約化され、その影響は県北の医療にも顕著に現れています。当院に受診される方の中にも1時間以上かけて出産に来られる方も多い現実に驚かされています。

私は、「母児ともに安全なお産をして頂けるように、患者様の訴えにできるだけ耳を傾け、産婦さんが自分の出産に満足感があるような援助を心がけています。出産後すぐに赤ちゃんを抱っこされ、「産まれてきてくれてありがとう。元気で良かった。」と、涙を流されている場面と一緒にいると、自分の仕事にとってもやりがいを感じます。産婦さんにとっても、その御家族にとっても、貴重な体験である出産という瞬間に自分も立ち合わせてもらえ、ここに感謝しています。

今後も助産師として、安心して子どもを産み育てられるよう支援していきたいと思っています。

当院のジェネリック医薬品は どうなっているの？

「ジェネリック医薬品について色々なところで広告されています。」

新薬(先発医薬品)が販売され一定の年数が経過すると、その特許期限が切れ、他の製薬会社も同一有効成分の医薬品を製造販売できるようになります。こうして世に出てきた後発医薬品をジェネリック医薬品と呼んでいます。

今回は、新薬(先発医薬品)とジェネリック医薬品として、当院のジェネリック医薬品の採用状況とその考え方について、Q&A方式で説明したいと思います。

Q1 先発医薬品とは？

A 新しく開発・発売された新薬を先発医薬品といいます。10～15年の長い研究時間と数十億円という莫大な投資費用をかけて製薬会社が新薬を開発しますので、一定期間、つまり特許期間(20～25年)は開発メーカーによって独占的に製造販売されます。開発費を吸収するためには、どうしても高価にならざるを得ません。

Q2 ジェネリック医薬品とは？

A ジェネリック医薬品は、先発医薬品と「薬の名称(商品名)」は異なりますが、有効成分が同じで、安全であると厚生省が認可した医薬品です。先発医薬品(新薬)の特許期間が過ぎ、特許が切れると、他の製薬会社でも製造可能となります。通常3～4年の期間と数千万円の比較的安全な開発経費でジェネリック医薬品(後発医薬品)が製造されます。当然、販売価格も安くなります。

Q3 先発医薬品とジェネリック医薬品とは全く同じ成分ですか？

A 有効成分は同じですが、各製薬会社により製造方法や添加物(混合物)などが異なります。そのため、治療効果、副作用の出方などまで全く同じとは言いきれません。

Q4 市立三次中央病院ではジェネリック医薬品はどれくらいありますか？

ん。また、ジェネリック医薬品は医薬品情報に格差があり、安全性情報や副作用情報の収集・提供においてはどうしても差が生じてしまいます。

Q5 当院にないジェネリック医薬品を処方してもらうためには？

A 以前より、当院でも患者様の負担軽減、経費節減のため、薬品の安全性、安定供給、情報量などを十分に検討した上で安全性を確認できたジェネリック医薬品を採用しています。ただし、治療効果の優れた新薬が次々に登場しており、そのような新しい薬のジェネリック医薬品は、残念ながら存在しません。当院に現在あるジェネリック医薬品は、当院の全内服薬782品目中の30品目(3.84%)です。経済効果を考え、ジェネリック医薬品の採用にともない、その先発医薬品は当院内での配備を止めることにしています。
(品目数：2007年8月現在)

Q6 申し出なければジェネリック医薬品を調剤してくれないのですか？

央病院の発行する院外処方箋には、「後発医薬品変更可」と医師の署名が基本的に入っています。つまり、患者様側からのお申し出があれば、ジェネリック医薬品に変更できるようになっています。

Q7 もっとジェネリック医薬品について詳しく知りたいのですが？

A 製品につきましては「医薬品情報提供ホームページ」が便利です。

(文責：診療技術部長兼薬剤科長 永澤 昌)

研修医
ノート

VOI.7



臨床研修医第4期生

吉塚 将昭

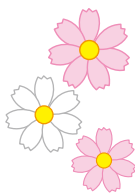
幅広い医師を
めざして

はじめまして、研修医一年目の吉塚です。私がこの市立三次中央病院を研修先として選んだ理由は、ここでは、軽症から重症まで、様々な状態の患者様が受診されており、また、救急告示病院として日夜救急患者様の受入れをされていると聞いたからです。

先輩医師からの助言もあり、このような忙しい病院で2年間研修すれば、医師として幅広く成長できると思い、この病院を選びました。

現在、内科研修を行いながら、週1回のペースで救急当直を担当しています。指導的立場の医師とチームを組んで患者様と関わらせていただくことで、数多くの勉強をさせていただいています。

様々な症状を訴えて受診される患者様一人一人にあった検査や治療を、指導医とともに考えるのは、非常に勉強になります。今は力不足ですが、近い将来皆様のお役に立てる医師を目指して日々頑張っています。救急外来を受診される機会がありましたら、よろしくお願ひします。



VOI.8



臨床研修医第4期生

大田 将史

努力を忘れず!

はじめまして、市立三次中央病院で研修を行っている大田です。平成13年に徳島大学医学部に入学し、6年間の大学生活が終わり、念願であった医師免許を取得し、今年の4月から当病院にて研修をさせてもらっています。

研修が始まって最初に感じたことは、大学で勉強してきたこと、実際の現場との違いでした。大学で学ぶことは、医学の基礎であり、臨床の現場ではとても重要なもので、それは、「こういう症状があればこうする」といった線引きの勉強でもありました。また、大学生ということもあり、責任が問われない中での実習であったので、先生がなんとかしてくれるという安堵感がありました。

しかし実際の現場では、ひとつの症状に対していろいろな治療があり、その中から患者様にとって何がベストなのかを考え、治療に結びつけなければいけません。

研修当初は、自分の無知、無力に歯がゆさや不甲斐なさを感じ、自分の力不足に不安になったこともありましたが、先輩医師からの指導を頂きながら、自分に足りないものをどんどん補っていくことと思っています。

最後になりますが、医師であるという責任の重さに潰されないよう、絶ゆまぬ努力を忘れず、日々精進していきたいと思っていますので、今後ともご指導の程宜しくお願ひします。

VOI.9



臨床研修医第4期生

樽谷 貴之

一日一日が
勉強です。

広く医師に初期診断能力(プライマリケア)を身につけることを目的に、新・臨床研修医制度が4年前より始まりました。それまでは、医学部卒業後にいきなり専門科にて臨床研修を行っていましたが、新制度になってから、2年間で内科、外科、小児科、産婦人科、麻酔科など多様な臨床科で幅広い研修を行うことが義務化されました。

私が臨床研修を行う病院としてこの病院を選んだのは、この病院がプライマリケアを学ぶ上で恵まれた環境にあると考えたからです。市立三次中央病院は県北(備北)二次医療圏の中核病院であり強く地域に密着した病院です。三次市からだけでなく地域周辺からも様々な患者様が来院されます。まさに、新・臨床研修医制度を実施するに最適な病院と考えたからです。

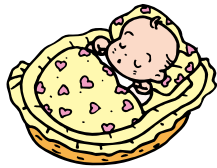
この半年間で、耳鼻科、外科、麻酔科で研修し、指導医と共に救急当直を行ってきました。本当に様々な症状を訴えられる患者様が来院されます。その患者様の訴えにこたえていくことによって、医師としての能力が自然と身についていると実感しています。

まだまだ医師として人間として未熟者で、一日一日が勉強です。地域の皆様のお役にたてるように頑張りたいと自らも成長したいと考えます。どうぞ、よろしくお願ひします。



安心して出産して いただくために

出産育児一時金の
事前申請手続きは
市立三次中央病院
窓口でできます。



出産育児一時金受取代理制度とは

国民健康保険、社会保険、各共済保険から支給される出産育児一時金について、事前申請で出産費用の全額または一部が各保険から病院に直接支払いされる制度です(上限35万円)。

事前に申請していただくと

出産に必要であった費用が35万円以下であれば、差額が申請者の口座へ支給されます。35万円以上であった場合は、その差額だけを病院にお支払いいただくだけで済みます。

事前の手続きで、出産費用の支払いが便利になります。ぜひ、この制度をご利用ください。

お問い合わせは 地域医療連携室

TEL:0824-65-0239

ボランティア募集中

活動内容

患者様や来院者の院内の案内、受付の案内
患者様用情報室「花みずき」の図書整理
病院内のガーデニングや植物の管理
趣味を活かした癒しの時間・空間づくりなど

申し込み・お問い合わせ 地域医療連携室

TEL:0824-65-0239



バス 芸陽/バス・備北/バス・中国/バス(JR三次駅から約10分)
お車 JR三次駅から約6分、中国自動車道三次ICから約3分です。

癒しのひとときを



ジャズピアニストの河野康弘さんからピアノの寄贈をしていただきました。7月6日には、贈呈式とコンサートが開かれました。



ボランティアの方による演奏会が定期的に行われています。当院のエントランスホールは、音響的にも条件がよく、ピアノやバイオリンの音が実に美しく響きます。必聴です!



お願い

救急診療について

カルテ等の準備をしますので、事前に電話連絡をお願いします。保険証をご持参ください。

TEL:0824-65-0101

外来診療 受付時間

午前8時30分～午前11時00分

(再診:午前7時30分～午前11時00分)

※午後の診療は予約診療と特殊外来です。受付でおたずねください。

休診日

耳鼻咽喉科(水)・脳神経外科(火・木)・眼科(火)

土曜・日曜・祝祭日・年末年始(12/29～1/3)

かかりつけ医から診療予約ができます

「かかりつけ医」の先生から「地域医療連携室」へご紹介いただくと、症状に応じた専門科医師の診療予約ができます。

お問い合わせ 地域医療連携室

TEL:0824-65-0239 FAX:0824-65-0159